

第4章 -Chapter 4-

自由な発想によるまちの将来像

第4章 自由な発想によるまちの将来像

-大学との連携によるまちの将来像の提案-

本調査は、様々な主体を参画としたまちづくりをテーマのひとつとしている。

千葉大学宇野求研究室においては、従来から研究の一環として、日本橋地域のまちづくりに関する活動「オール日本橋」再生のための調査や様々なイベントに対して積極的に参加・活動を行ってきた。

〈宇野研究室の過去の活動〉

- * 2001-2003 東京都中央区全域を対象地としてテクノロジーを軸とする サステナブルな都市デザインについて研究（環境調和型都市デザイン研究）
- * 2002-2004 「ちいさな都市再生がいっぱいⅡ-Ⅲ」の企画開催
（建築学会本部企画建築文化週間シンポジウム、企画運営：宇野研）
- * 2003- 世界ガス会議で東京都中央区を対象に「ライトシティ東京」を発表
- * 2003-2005 ペンシルピルの連結による街並み再生研究（建築学会特別 研究委員会、共同）
- * 2003-2004 日欧（日本-EU）大学院による日本橋問屋街エリアの調査研究および再生提案活動
- * 2004- 「まちを元気に」- 日本橋四之部連合町会エリアにおける連続街づくり勉強会、
展示会の開催（企画運営、事務局：宇野研、四の部連合町会、地域商工団体、
中央区と共催）
- * 2005- 日本橋問屋街街づくり協議会における国道地下空間利活用検討
- * 2005- 地域産業団体事務局ビルの部分改修
- * 2005- 「よみがえるとんやがい」- 問屋街建築再生のためのデザインワークショップ
開催
- * 2005- 都市「すき間」の利活用のための調査研究（科研助成研究）
- * 2005-2006 奉仕会館情報コア インテリア改修
- * 2006- 東アジアにおける問屋街建築の都市間比較研究（科研助成研究）
- * 2006- 都市再生モデル調査への協力（内閣府都市再生本部）

日本橋四之部連合町会エリア
における連続街づくり勉強会



奉仕会館情報コア インテリア改修



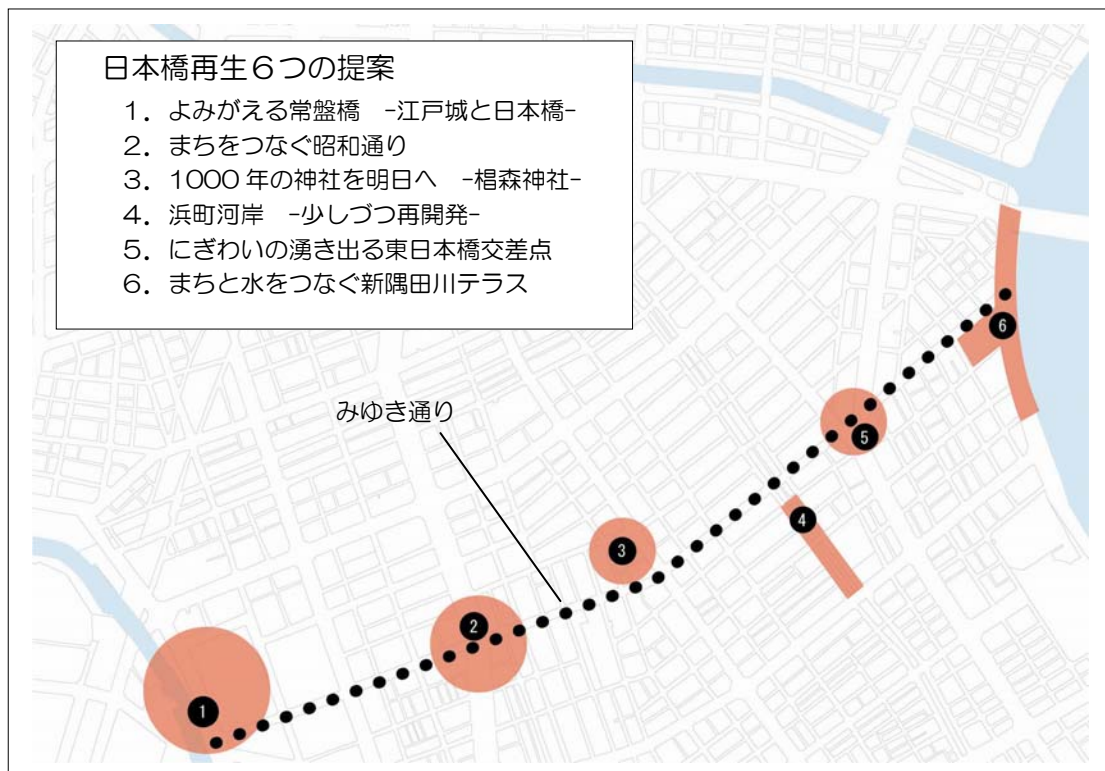
そこで、本調査においては、千葉大学と東京理科大学の大学院生30名が、本調査の主体となった日本橋みゆき通り委員会のメンバーを主とした日本橋地域の住民の方々と自由な意見を交換しながら、学生として、学生ゆえの発想に基づいた「オール日本橋」活性化のために、みゆき通りを軸として地域全域を歩いて実施調査を行い、課題を抽出、それを解決するための、建築的・都市計画的方法を検討し、作成を行った。

本対象地域のみゆき通り沿いにおいて、6つのエリア（常盤橋、昭和通り、梶森神社、浜町河岸、東日本橋交差点、隅田川）を選定し、それぞれ個別に提案することとした。

※なお、本章の提案は学生の自由な発想にもとづく検討スタディであり現実の計画ではありません。

日本橋のまちを再生更新するための建築学的／都市計画学／造園学的な、潜在的可能性についてスタディしたものです。

■みゆき通りにおける6つのエリア



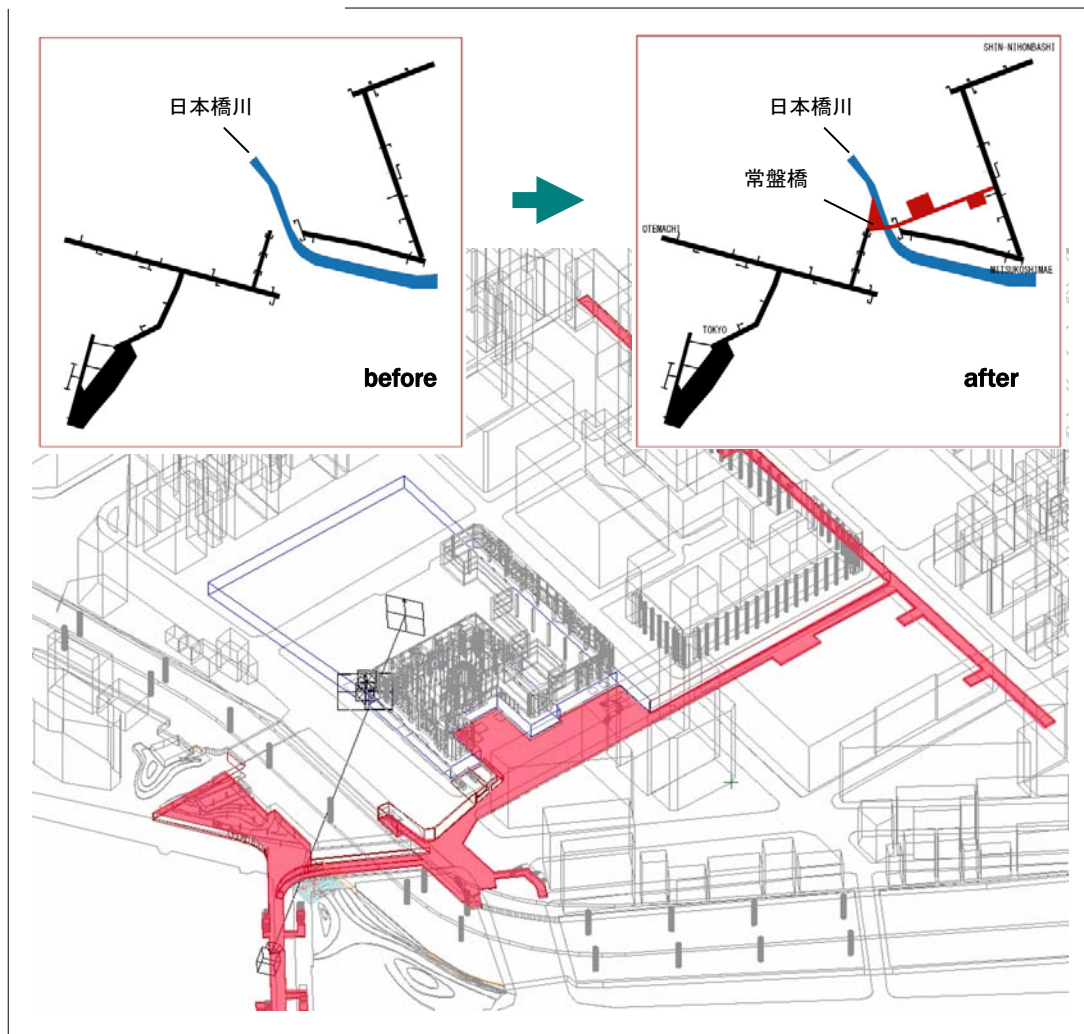
1. よみがえる常盤橋 -江戸城と日本橋-

本提案は、江戸開府以来の400年の蓄積された歴史が、現在は「ごった煮」状態になっており、人々に感銘を与えるべき本来の姿とはかけ離れた状態となっている常盤橋周辺を、威厳と風格漂うまちへと復活させることを目的とした。

また、みゆき通り街づくり委員会活動エリアの始点である常盤橋を、みゆき通りの顔として位置づけ、本エリアに位置する日本銀行新館を改築し、現在、遮られている動線や視線、空間の「抜け」を取り戻し、周辺地域に開かれた本地域の顔として、また、旧奥州・日光街道等と絡めながら復活させていく。

- ・常盤橋周辺エリアは、区界、地下道の分断（東京・大手町方面や三越・日本橋方面からの地下道が本エリアにて分断され、みゆき通り方面とは繋がっていない）、首都高速によるまちの分断という現象がおきている。そこで、地下道を日本橋川の下を通して繋げることにより、日本橋地域と東京駅・大手町地域をつなげ、更に人の流れを双方に誘導していくこととする。
- ・また、日本銀行新館を、足元を開放した建物とすることにより、公開空地を確保し、広く一般に開放することにより、様々な動線も確保され、多様な人の流れもでき、まちの顔としての空間が出現すると思われる。

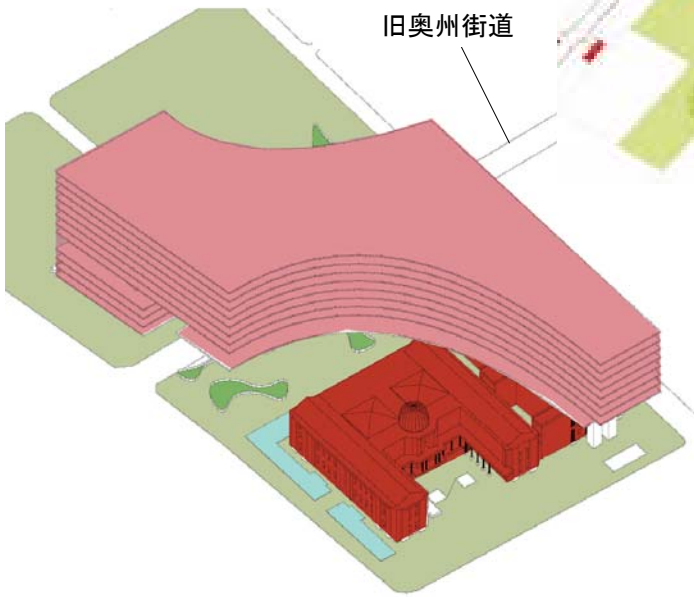
■地下道の連結イメージ



■全体平面図



旧奥州街道



常盤橋門前での野外歌舞伎実演イメージ

■全体平面図



2. まちをつなぐ昭和通り

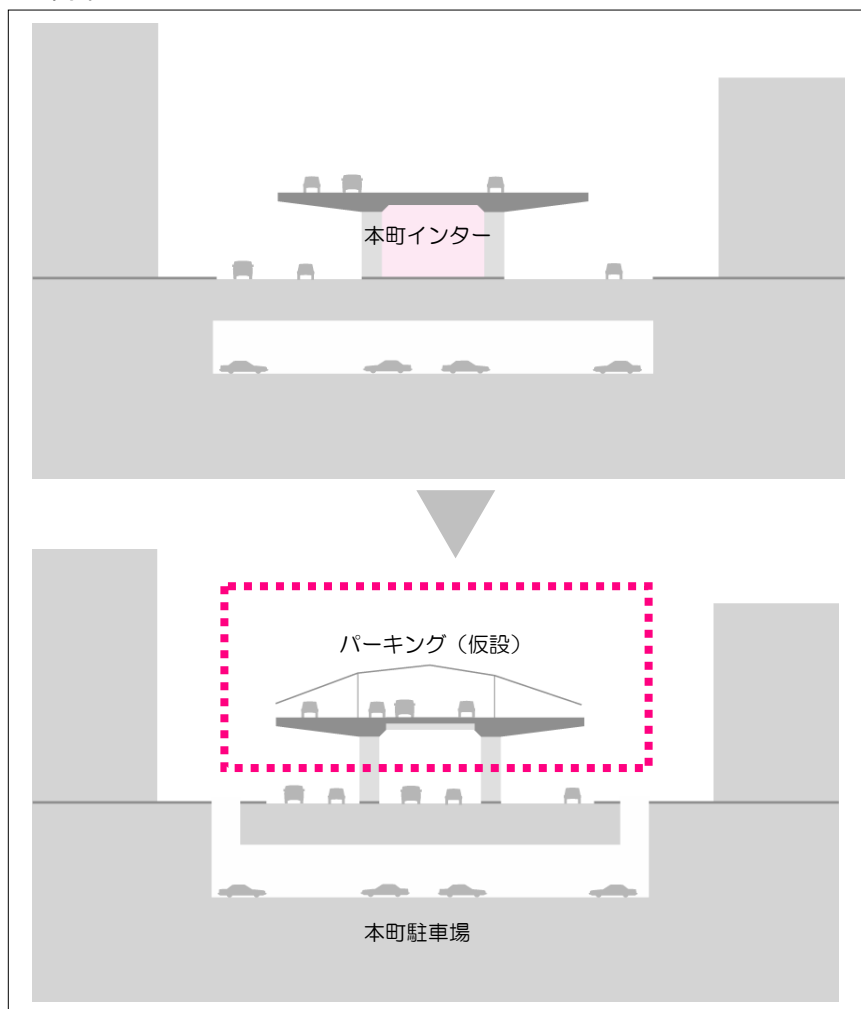
関東大震災復興事業の一環として建設された昭和通りは、かつては広い、連続した緑地帯が続く道路であったが、現在は上空に首都高速道路の高架がかかり、物理的にも精神的にも日本橋のまちを分断する大きな要因となっている。

また、昭和通り上空を走る首都高速1号上野線は入谷で止まる盲腸線となっており、その交通量は少なく、更に延長には膨大な費用がかかるため、現在、環状道路の整備が進む中、上野線自体の存在価値を見直す必要があると思われる。

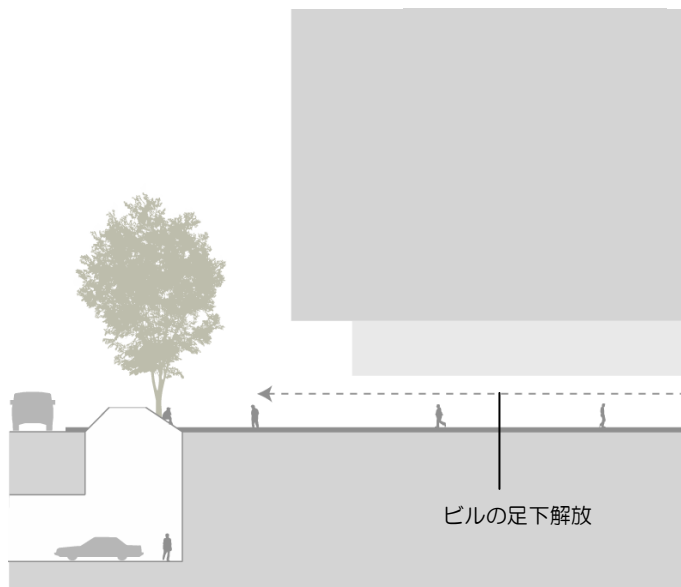
そこで、仮に首都高速道路1号線を廃止し、高架部分を駐車場とし、昭和通りの歩道を拡幅、周囲のビルにまちのインフォメーション施設を設置する等により、昭和通り自体をまちの情報発信基地とし、分断されたまちをつないでいくこととする。

- ・昭和通りの中央分離帯には本町インターが設置されているが、インターを廃止し、その敷地を双方に振り分け舗道を拡幅する。次に、盲腸線である首都高速道路1号線を廃止し、高架上を駐車場として活用する。その後、日本橋川上空の高速地下化に合わせ、高架橋を撤去し、駐車場は地下に移設する。
- ・首都高速道路の機能が変化するとともに、昭和通りとみゆき通りの交点に立地するオフィスビル（山三ビル）の下層部をリニューアルし、街の案内所として開放し、駐車場からまちに繰り出してくる人々に情報を提供する場としていく。

■高架上パーキングのイメージ



■昭和通りと山三ビル断面図



■首都高速道路が撤去された交差点



首都高速道路が撤去された交差点
(江戸橋方面から)



首都高速道路が撤去された交差点
(三越方面から)

3. 1000年の神社を明日へ -梶森神社再生-

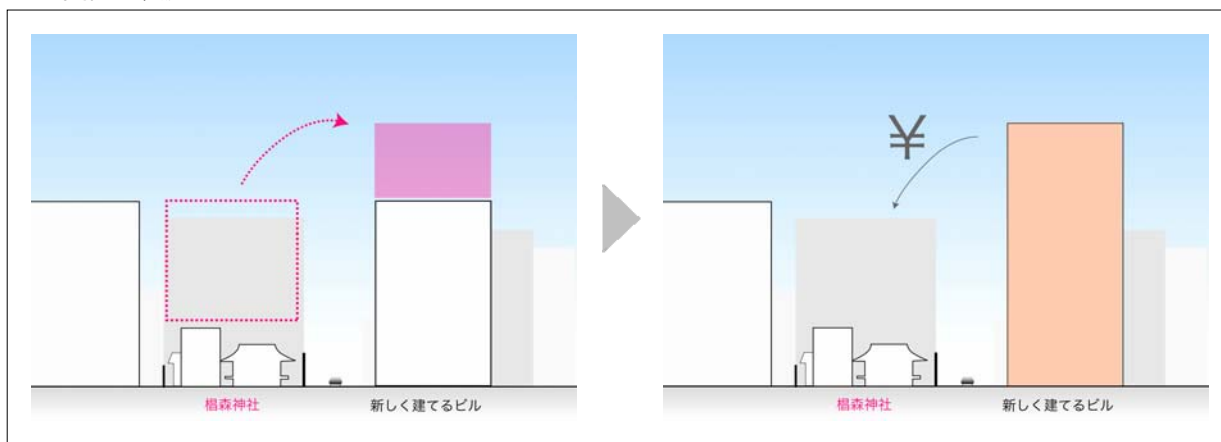
常磐橋と両国橋を結ぶみゆき通りの中間地点に位置する梶森神社は、1000年以上の歴史がある由緒ある神社である。例大祭、べったら市、節分祭等の神事では、都市的活動の拠点として地域に豊かな場を提供する一方で、都市環境の急速な変化に伴う経済的理由から、恒常的に境内の敷地半分を駐車場として貸しているという状況である。

そこで、本計画では、駐車場に代わる新たな収入源となる3つの提案と、現代都市における神社空間再生の提案を行うこととする。

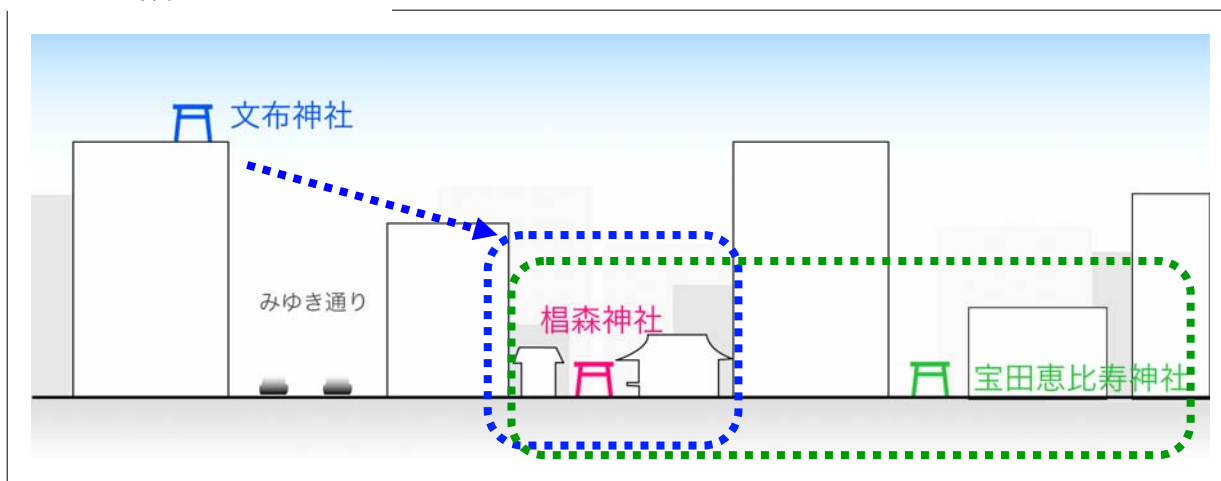
- ・空中権の譲渡…神社上空の未利用分容積を他の敷地に譲渡することにより、駐車場に代わる安定収入を得るとともに、都市の空隙として神社敷地を保存する。
- ・Rental 神社…みゆき通り周辺に点在する37ヶ所の神社のうち、屋上神社や狭小神社に神事の場所を提供することで、地域の文化を保全する。
- ・Virtual 富籤…梶森神社は、富籤（くじ）発祥の地とされており、携帯を活用した新たな富籤システムにより、神社及び周辺商業の活性化を図る。

また、ビルに囲まれた都心の中の梶森神社を、より神聖な場とし、自然に手を合わせたいくなるような、非日常的な空間にする工夫を行う。

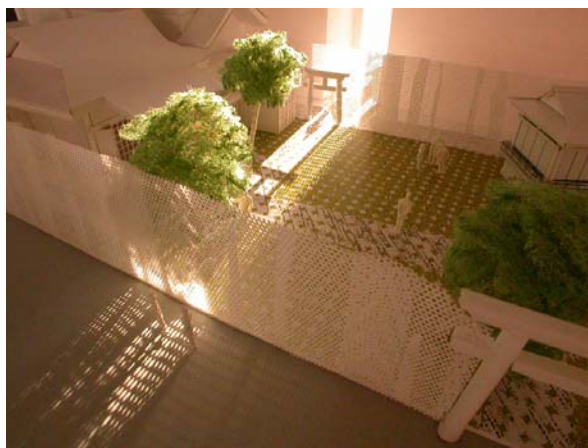
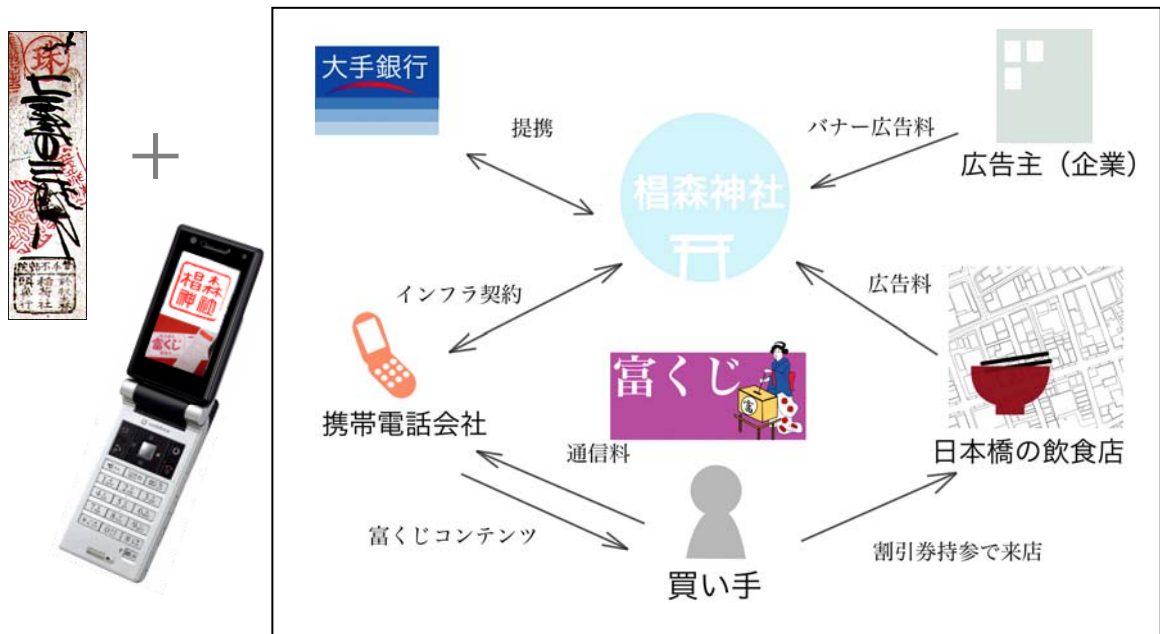
■空中権の譲渡イメージ



■Rental 神社のイメージ



■Virtual 富籤のシステムイメージ



■梶森神社神聖な空間化イメージ

